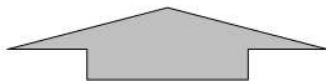


事務事業名 地域子ども会活動費補助事業

出力日：令和06年03月18日

キーコード：609

施策：	19	青少年の健全育成	財務コード	01090603-08-548
基本事業：	01	青少年の学習機会、体験活動の充実	担当部	教育部
基本事業の成果指標	子どもの家庭・地域での体験活動が充分だと思ふ市民の割合 学校の授業以外で体験活動をしている児童の割合 学校の授業以外で体験活動をしている生徒の割合		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
単位子ども会（地域子ども会）		地域社会を基盤として展開される子どもたち自身の自発的、自主的な活動を行う団体であるところの子ども会を財政的に支援する。「子ども会活動」を行っている市内の子ども会に対し、補助金の交付を行う。（市子連加入を問わない）				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）		【手続きの流れ】申請 書類審査 子ども会員数集計 補助金額算定 補助金交付決定 交付 実績報告				
単位子ども会の活性化を図る。子ども達の体験活動を充実させるとともに、親の教育力を高め学習機会を充実させる。		【補助金額】 = 【一律基本額：10,000円 + 人員割額：（R2：580円、R3：600円、R4：570円）×会員数】で算出				
		各単位子ども会の活動内容は、まつりや敬老会等での地域交流会、ラジオ体操、レクリエーション活動、もちつきなど様々な活動の企画や運営を実施している。				

4. 成果（簡易評価は未記入）								
成果指標名称	単位	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	目標
		実績	実績	当初	要求	計画	計画	
子ども会員数	人	3,163	3,339	3,300	3,300			3,500
活動回数	回	325	551	800	800			850

5. コスト								
事業費	計	千円	2,397	2,393	2,400	2,400		
	国	千円	0	0	0	0		
	県	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
	一般	千円	2,397	2,393	2,400	2,400		
正職員人工数		人工	0.2	0.2	0.2			
正職員人件費		千円	1,584	1,546	1,563			
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	3,981	3,939	3,963	2,400		

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）	
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	新型コロナウイルス感染症の影響で中止された活動もあったが、子ども会活動回数は徐々に回復している。

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）			
対象動向	維持	類似事業	なし
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり
成果向上余地	中程度		

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）		改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
--------------------------	--	-------	----	-----	----	------

改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）	
会員数は横ばいであるため、補助金を活用して更なる子ども会活動が進むよう、補助金制度の周知を行う。	

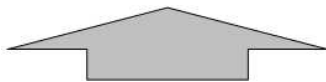
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）	備考・特記事項 or 進行管理欄
地域社会を基礎として展開される、子ども達自身の自発的、自主的な団体である「地域子ども会」を支援する事業。親や子ども達の価値観の多様化により、子ども会活動に対する認識が薄らいでいる。	

事務事業名 青少年育成事業（BGレンジャー）補助事業

出力日：令和06年03月18日

キーコード：613

施策：	19	青少年の健全育成	財務コード	01090603-12-551
基本事業：	01	青少年の学習機会、体験活動の充実	担当部	教育部
基本事業の成果指標	子どもの家庭・地域での体験活動が充分だと思ふ市民の割合 学校の授業以外で体験活動をしている児童の割合 学校の授業以外で体験活動をしている生徒の割合		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成13年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
地域コミュニティ内の複数の青少年関係団体、機関、グループで組織する実行委員会		公民館やコミュニティセンターを中心としながら、地域での「青少年の課題」「青少年に必要な体験」などを地域の人が集まって考え、大人と子どもが触れ合っ、解決に取り組む事業（地域の教育力が高まる事業）を行う団体に対して補助する。 ・団体構成員 地域内在住の成人5名以上で構成。 構成員の中に、地域内の役員（隣組長）含む ・補助額（最高） 1年目10万円、2年目7万円、3年目3万円。 例：農業体験事業、子ども防犯パトロール隊 など 補助金終了後も事業目的に向けての取り組みを続けていくこと。 社会教育委員の会で内容説明（新規）、内容審査（2年目、3年目）を行い、補助金支給の決定し、事業実施を行う。				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
様々な体験活動や行事等を通じて、心豊かな青少年の育成とまちづくりの推進を図る。						
4. 成果（簡易評価は未記入）						

成果指標名称	単位	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	目標
		実績	実績	当初	要求	計画	計画	
補助終了後も活動している団体数	団体	13	13	15	15			15
補助団体数（延べ）	団体	37	37	37	37			38

5. コスト								
事業費	計	千円	100	100	130	170		
	国	千円	0	0	0	0		
	県	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
一般	千円	100	100	130	170			
正職員人工数	人工	0.1	0.1	0.1				
正職員人件費	千円	792	773	782				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	892	873	912	170			

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）								
あがっている	補助終了後も活動を継続している団体数は維持されている。 令和3年度に補助金の交付を受けた2団体は、どちらも継続して事業を実施することができた。							
どちらかといえばあがっている								
あがっていない（停滞・低下）								

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）								
対象動向	維持	類似事業	あり	平成30年度から、募集期間を10日程度から約2か月間に延長した。				
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし					
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし					
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり					
成果向上余地	中程度							

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）								

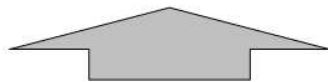
引き続き、活動継続団体数の維持・増加のために、情報提供などの支援を行うとともに、新規団体の応募のため、広報活動や補助金制度の整備見直しに努めていく。								
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）								
備考・特記事項 or 進行管理欄								
平成13年度、地域が協力し、知恵を出し合い、青少年の健全育成を通して、まちづくりの推進を図るための事業として設立。								

事務事業名 竜岩自然の家主催講座事業

出力日：令和06年03月18日

キーコード：678

施策：	19	青少年の健全育成	財務コード	01090604-02-560
基本事業：	01	青少年の学習機会、体験活動の充実	担当部	教育部
基本事業の成果指標	子どもの家庭・地域での体験活動が充分だと思ふ市民の割合 学校の授業以外で体験活動をしている児童の割合 学校の授業以外で体験活動をしている生徒の割合		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成12年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市内の青少年及びその他の施設利用者		ボランティアの活動等により事業を実施する。 ドラゴンロックフェスタ、クライミング教室（少年）、クライミング教室（一般）、工作教室、野鳥観察会、しめ飾り作り、木工パズル教室、初めてのヨガ、クリスマスリースを作ろう、初心者キャンプ教室、初心者登山教室 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症のため、中止若しくは実施回数を減らした。				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
施設を取り巻く豊かな自然環境や学習資源を生かしながら、多彩な学習プログラムの提供を図り、自然体験活動等の体験者を増やす。						

4. 成果（簡易評価は未記入）								
成果指標名称	単位	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	目標
		実績	実績	当初	要求	計画	計画	
事業参加者数（延べ人数）	人	227	1,272	2,150	2,150			2,200
主催講座の市民参加率	%	91	65	70	70			70

5. コスト								
事業費	計	千円	162	625	811	813		
	国	千円	0		0	0		
	県	千円	0		0	0		
	地方債	千円	0		0	0		
	その他	千円	0	126	160	160		
	一般	千円	162	499	651	653		
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1			
正職員人件費		千円	792	773	782			
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	954	1,398	1,593	813		

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）								
あがっている	令和4年度は新型コロナウイルス感染症のため中止若しくは実施回数を減らした。							
どちらかといえばあがっている	事業実績（活動名称（a.開催回数、b.参加者数、c.利用料） ドラゴンロックフェスタ（a.1回、b.508人、c.無）、クライミング少年（a.20回、b.217人、c.有）、クライミング一般（a.20回、b.246人、c.有）、工作教室（a.2回、b.0人、c.無）、野鳥観察会（a.9回、b.98人、c.無）、しめ飾り作り（a.1回、b.24人、c.無）、初心者登山教室（a.2回、b.28人、c.無）、木工パズル教室（a.5回、b.17人、c.無）、初めてのヨガ（a.9回、b.74人、c.無）、クリスマスリースを作ろう（a.1回、b.42人、c.無）、初心者キャンプ教室（a.1回、b.18人、c.無）							
あがっていない（停滞・低下）								

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）								
対象動向	維持	類似事業	なし					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし					
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし					
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	なし					
成果向上余地	中程度							

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
--------------------------	--	--	--	-------	----	-----	----	------

改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）								
閑散期（11月～2月）に利用者数が少なくなることから、令和4年度から、ドラゴンロックフェスタの開催時期を4月から11月に変更した。				令和4年度から成果指標として「主催講座の市民参加率」を追加				

事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				備考・特記事項 or 進行管理欄				
----------------------------	--	--	--	------------------	--	--	--	--

平成12年、龍岩小学校跡地に、青少年のための野外教育活動施設として開所されたことに伴い、事業を開始。								
--	--	--	--	--	--	--	--	--

事務事業名 筑紫野市子ども会育成会連絡協議会補助事業

出力日：令和06年03月18日

キーコード：604

施策：	19	青少年の健全育成	財務コード	01090603-04-547
基本事業：	03	青少年の指導者育成	担当部	教育部
基本事業の成果指標	青少年の指導者・子どもリーダー数 生涯学習ボランティア活動者数（延べ活動者数のうち青少年に関わるもの人数）		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分	実施計画			
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
筑紫野市子ども会育成会連絡協議会			地域の子ども会活動への協力と理解に厳しさが増すなか、「子どもの手による子ども会活動」を目指して子ども会を支援指導する「筑紫野市子ども会育成会連絡協議会」を支援する。 【活動内容】 ・役員会、運営委員会、専門部会の定期的な会議の開催 ・イベントの実施（指導者研修会、子ども会サミット、カルタ大会など） ・各子ども会育成会への説明（現新役員懇談会、事務担当者説明会）						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
市内の子ども会の育成活動の推進と育成及び指導者の資質の向上に努め、もって子ども会の健全育成に資することを目的に設立された「筑紫野市子ども会育成会連絡協議会」を支援する。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	03年度 実績	04年度 実績	05年度 当初	06年度 要求	07年度 計画	08年度 計画	目標
子ども会加入率		%	33.5	32.9	40	40			60
子ども会加入率が50%を超えている行政区の割合		%	92.8	88.8	90	90			70
5. コスト									
事業費		計	千円	0	495	495	495		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0		
一般		千円	0	495	495	495			
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1				
正職員人件費		千円	792	773	782				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	792	1,268	1,277	495			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		令和3年度末に1単子が市子連を退会し、令和4年度4月時点での加入数は27単子となったため、成果指標については数値が下降している。 令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により規模を縮小したものの、竜岩自然の家でのデイキャンプやカルタ大会などのイベント行事、現新役員懇談会など育成会向けの説明会を実施することができた。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	市子連への加入率の低下により、加入している単位子ども会への負担が増加している。単位子ども会への負担が減少するように、主催事業の運営方法などを見直す必要がある。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）									
改善案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了	
市子連活動は、地域の子ども会活性化に必要であるため、引き続き市子連の活動を見守るとともに支援を続ける。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				備考・特記事項 or 進行管理欄					
市内の子ども会の育成活動の推進と育成及び指導者の資質の向上に努め、もって子ども会の健全育成に資することを目的に設立された「筑紫野市子ども会育成会連絡協議会」を支援する。				地域の子ども会育成会役員の負担を減らすため、市子連への加入が敬遠され、加入率の低下につながっている。					

事務事業名 筑紫野市青少年育成市民会議補助事業

出力日：令和06年03月18日

キーコード：610

施策：	19	青少年の健全育成	財務コード	01090603-09-549
基本事業：	03	青少年の指導者育成	担当部	教育部
基本事業の成果指標	青少年の指導者・子どもリーダー数 生涯学習ボランティア活動者数（延べ活動者数のうち青少年に関わるもの人数）		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和56年度 ~		新規・継続	継続	会計区分		実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
筑紫野市青少年育成市民会議			筑紫野市青少年育成市民会議は、コミュニティ運営協議会をはじめとするボランティア団体、各小中学校PTAや校長会、青少年指導員会といった子どもを見守る団体など、合わせて43団体と11人の個人会員で構成されており、活動を支援するため補助金を交付する。						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			【活動】						
青少年の健全育成に係る団体、機関の中心的役割を果たす「筑紫野市青少年育成市民会議」の活動を支援する。			<ul style="list-style-type: none"> ・役員・事務局会を毎月1回、幹事会を2ヶ月に1回実施。 ・市民フォーラムの開催（毎年11月） ・「子ども110番の家」プレートの作成配付。 ・市内中学校吹奏楽部合同演奏会、や中学校野球大会、中学校平和劇、美咲力ヌー大会、筑紫小学校区フットベースボール大会等への事業支援。 						
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	03年度実績	04年度実績	05年度当初	06年度要求	07年度計画	08年度計画	目標
加盟団体数		数	43	43	43	43			43
市民フォーラム参加者数		人	0	102	193	193			200
5. コスト									
事業費		計	千円	80	200	200	200		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他一般	千円	0	0	0	0		
正職員人工数		人工	0.2	0.2	0.2				
正職員人件費		千円	1,584	1,546	1,563				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	1,664	1,746	1,763	200			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		加盟団体数は横ばいとなっている。 市民フォーラムは、新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年度まで中止としていたが、令和4年度は3年ぶりに対面形式で開催した。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
青少年育成市民会議が行う各種事業の推進へ助言等を行い、フォーラムをはじめとする事業に多くの住民が参加し、青少年健全育成のための活動が活発となるよう支援を続ける。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
昭和56年、青少年問題のもつ重要性に鑑み、広く市民の総意を結集し、国、県及び市の施策と呼応して青少年の健全な育成を図ることを目的として組織された「筑紫野市青少年育成市民会議」を支援するための事業。									

事務事業名 子ども会リーダースクール事業

出力日：令和06年03月18日

キーコード：668

施策：	19	青少年の健全育成	財務コード	01090603-19-553
基本事業：	03	青少年の指導者育成	担当部	教育部
基本事業の成果指標	青少年の指導者・子どもリーダー数 生涯学習ボランティア活動者数（延べ活動者数のうち青少年に関わるもの人数）		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成19年度 ~		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画			
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
市内の小学4・5年生（次年度の子ども会役員対象者）			【手順】 筑紫野市子ども会育成会連絡協議会（「市子連」）と研修内容の検討 各子ども会（市子連未加入を含む）に開催案内。参加者のとりまとめ 集合研修（1日）を開催。終了後に参加者全員にリーダー認定証を交付 【内容】 子ども会リーダーの基礎知識の学習や企画立案力を養成するため、以下の内容の座学、グループワークなどを行う。 ・子ども会、育成会とは ・子ども会リーダーとその役割とは ・子ども会活動の意義 ・仲間づくりのためのレクリエーション ・子ども会行事の企画立案方法							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			子ども会の主体者としての自覚を促し、積極的に子ども会を担っていくリーダーの育成を図り、子ども会が円滑に運営されるようにする。							
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	03年度 実績	04年度 実績	05年度 当初	06年度 要求	07年度 計画	08年度 計画	目標	
スクール参加者数		人	42	15	50	50				
スクール参加者のうち、子ども会役員になった人数		人	27	13	40	40				
5. コスト										
事業費		計	千円	10	4	71	71			
		国	千円	0	0	0	0			
		県	千円	0	0	0	0			
		地方債	千円	0	0	0	0			
		その他	千円	0	0	0	0			
一般		千円	10	4	71	71				
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1					
正職員人件費		千円	792	773	782					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	802	777	853	71				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている	（状況） スクール参加者数は、前年度比27人減となった。									
どちらかといえばあがっている	（要因） 令和4年度は生涯学習センターで従来の集合研修で実施したが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、少ない参加者数に留まっている。									
あがっていない（停滞・低下）	なお、令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、集合研修に代えて、各子ども会に研修資料の配布及び研修動画を市子連ホームページに掲載し、各子ども会単位での研修（自宅での自主学習等）を実施した。									
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	コロナ禍前と比較し、リーダースクール参加者数が少ない状況となっている。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	基礎的事務事業	業務推進課題	あり							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
リーダースクール事業の目的である「子どもが主体となる子ども会活動」を推し進めるため、市子連に加入しているかどうかに関わらず参加案内を行っているが、コロナ禍の影響もあり、少ない参加者数に留まっている。前年度の実施報告書等、学習内容がわかる資料を開催案内に同封する等の工夫をし、引き続き参加者増に努めていく。										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄					
積極的に子ども会を担っていくリーダーの育成を目的として平成19年度から事業を開始した。										

事務事業名 子ども会育成会指導者研修会事業

出力日：令和06年03月18日

キーコード：669

施策：	19	青少年の健全育成	財務コード	01090603-20-554
基本事業：	03	青少年の指導者育成	担当部	教育部
基本事業の成果指標	青少年の指導者・子どもリーダー数 生涯学習ボランティア活動者数（延べ活動者数のうち青少年に関わるもの の人数）		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

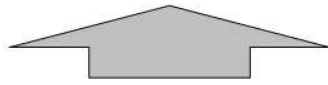
計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
子ども会育成会指導者			<p>【子ども会育成会研修会】 子ども会活動を支援する育成会として必要な知識、技術の習得を促す。研修会で、育成会経験者の講話や、レクリエーション活動の講習を行う。</p> <p>【その他の研修】 福岡ブロック子ども会等育成会指導者研修会、筑紫地区子ども会、少年団体指導者研修会等の情報を市子連を通じて情報提供。</p>						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			子ども会活動を支援する育成会（子ども会育成会）の役割と、その支援のあり方を学ぶことにより、子ども会育成会が円滑に運営される。						
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	03年度 実績	04年度 実績	05年度 当初	06年度 要求	07年度 計画	08年度 計画	目標
子ども会育成会数		数	50	49	55	55			60
研修会参加者数		人	50	41	150	150			
5. コスト									
事業費		計	千円	4	2	22	22		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他 一般	千円	4	2	22	22		
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1				
正職員人件費		千円	792	773	782				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	796	775	804	22			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		令和4年度は集合形式で開催し、38単子41人が参加した。子ども会活動に活かせるものとして、ニュースポーツ、遊び、工作の体験学習を行った。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	現在、市子連を退会または活動を休会している子ども会への働きかけについて、市子連と検討している。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	基礎的事務事業	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
今後も継続して、「子どものための子ども会」の考え方を進めていくなかで、「本来の子ども会とは、どういうものなのか」や、育成者の役割を伝えていくことが必要であり、本事業を通して、研修の場を提供する。					平成27年度より、子ども会活動補助金の対象を見直し、市子連に未加入の子ども会の把握を行った。その中で市の主催事業となる本事業についても、子ども会活動の活性化を図るため、市子連未加入の単位子ども会に向け、参加の奨励を行なっている。				
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
子ども会育成会指導者に対して、子ども会活動を支援する育成会としての役割と、その支援のあり方を学ぶ機会を提供することを目的として開始した。					親や子ども達の価値観の多様化により、子ども会活動に対する認識が薄らいでいる。				

事務事業名 筑紫野市青少年指導員会補助事業

出力日：令和06年03月18日

キーコード：612

施策：	19	青少年の健全育成	財務コード	01090603-11-550
基本事業：	04	環境浄化活動の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	少年の検挙・補導人数		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
筑紫野市青少年指導員会			<ul style="list-style-type: none"> ・青少年指導員の知識、技能の向上を図るとともに、青少年の健全育成及び非行防止活動を支援するため、補助金を交付する。 ・平成24年度より、各小学校区に5人以内の配置。 ・11小学校区で総数55人以内。 （任期2年：4/1～翌々年3/31） （令和5年4月現在で、53人委嘱済） 						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			【主な活動内容】						
青少年指導員の知識、技能の向上を図るとともに、指導員相互及び各校区間の連携を緊密にし、少年補導員会等の関係団体との協力体制を確立し、もって青少年の健全育成及び非行防止活動を推進する。			<ul style="list-style-type: none"> ・パトロール 小学校区での定例パトロール、少年補導員会との夜間一斉パトロール 観月会や成人式でのパトロール ・研修及び視察 						
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	目標
			実績	実績	当初	要求	計画	計画	
教育講演会の出席者数		人	0	138	130	130			130
巡回数		回	413	487	550	550			550
5. コスト									
事業費		計	千円	0	90	90	90		
		国	千円	0		0	0		
		県	千円	0		0	0		
		地方債	千円	0		0	0		
		その他	千円	0		0	0		
一般		千円	0	90	90	90			
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1				
正職員人件費		千円	792	773	782				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	792	863	872	90			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		青少年指導員会の会議（幹事会）が有効に行われたことで、各校区間で連絡事項や活動について情報共有がスムーズになされ、青少年活動を見守る体制に繋がった。 教育講演会は3年ぶりに通常開催。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	平成26年に、活動報告書の様式を分析・検討しやすい内容に変更した。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	基礎的事務事業	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
青少年の健全育成、非行防止には、巡回活動をはじめ青少年指導員会の活動が重要であり、引き続き支援を続けていく。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
平成4年7月、「青少年を非行から守る全国強調月間」に併せて発足し、小学校区を中心に、青少年の健全育成に関する育成事業の推進、各種指導者との連携を図る等、青少年活動の指導を目的とする。他の青少年健全育成団体、防犯団体及びPTAとの連携が求められている。									

事務事業名 少年補導員会事業

出力日：令和06年03月18日

キーコード：672

施策：	19	青少年の健全育成	財務コード	01090603-21-555
基本事業：	04	環境浄化活動の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	少年の検挙・補導人数		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
少年補導員会			筑紫野市青少年指導員と連携して、少年非行の防止のため、各地域の巡回活動等を行なっている。総勢25人（中学校区を1グループとし、3～7人で構成。） <少年補導員の主な活動> ・中学校区での補導活動 ・筑紫野警察署との連携補導活動、 ・不審者対応への啓発活動 ・立ち入り調査等の環境浄化活動 ・筑紫野市青少年指導員と連携した夜間補導一斉パトロール ・成人式の見守り活動						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
筑紫地区（特に筑紫野警察署管内の太宰府市）の少年補導員会と連携・協力し、補導活動必要な研修会を実施することにより、少年の非行を防止する。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	03年度 実績	04年度 実績	05年度 当初	06年度 要求	07年度 計画	08年度 計画	目標
検挙補導総数（筑紫野市）		件	35	28	27	31			40
5. コスト									
事業費		計	千円	60	60	60	60		
		国	千円	0		0	0		
		県	千円	0		0	0		
		地方債	千円	0		0	0		
		その他	千円	0		0	0		
一般	千円	60	60	60	60				
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1				
正職員人件費		千円	792	773	782				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	852	833	842	60			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		令和4年中の検挙補導総数は、昨年より若干減っている。コロナ禍を経て感染対策に配慮した新たな活動方法について模索しながら、今後も少年補導員にしかできない地域に密着した活動を自主的に行っていけるよう支援する。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	基礎的事務事業	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）									
改善方向性					維持	見直し	廃止	事業終了	
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
中学校区毎における自主補導、筑紫野警察署との連携補導活動、不審者対応への啓発活動、立ち入り調査等の環境浄化活動を行っており、筑紫野市における少年の非行防止の重要な役割を担っているため、支援を継続していく。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
青少年の健全育成と非行防止を目的とする、少年補導員会活動の支援を行うことを目的とする。 青少年を取り巻く状況が、年々厳しくなっていくなかで、少年補導員の活動に対する要望は高まっている。					平成27年度、白いポスト廃止。 平成28年度から、負担金相当60千円のみ補助。				

事務事業名 青少年指導員事業

出力日：令和06年03月18日

キーコード：675

施策：	19	青少年の健全育成	財務コード	01090603-03-546
基本事業：	04	環境浄化活動の推進	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	少年の検挙・補導人数		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成04年度 ~		新規・継続	継続	会計区分		実施計画			
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
市内の青少年			<p>【体制】青少年指導員55名（各小学校区5名）を委嘱。（令和5年4月現在53名委嘱済）</p> <p>【主な活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期（2ヶ月に1回）役員・幹事会で、各校区の情報交換と活動の連携を図る。 ・青少年指導員の学習、研鑽を目的に、年1回、研修会を開催。 ・教育講演会（年1回）を実施し、PTAとともに青少年の健全育成の実践につなげる。 ・校区ごとの街頭巡回指導。（各校区月2回） 二日市校区と山口校区は、合同パトロール。 ・夏季（7月）と冬季（12月）に、少年補導員とともに、夜間一斉補導パトロールを実施。（5中学校に区分け） 							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										
青少年の非行を防止し、健全な保護、育成を図る。										
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	03年度 実績	04年度 実績	05年度 当初	06年度 要求	07年度 計画	08年度 計画	目標	
巡回活動数		回	94	87	240	264			264	
問題行動発見件数		件	4	5	5	5			10	
5. コスト										
事業費		計	千円	1,091	1,281	1,487	1,489			
		国	千円	0		0	0			
		県	千円	0		0	0			
		地方債	千円	0		0	0			
		その他	千円	0		0	0			
一般	千円	1,091	1,281	1,487	1,489					
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1					
正職員人件費		千円	792	773	782					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	1,883	2,054	2,269	1,489				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		定期パトロール以外に、学校等からも要請があるなど、青少年指導員の存在や活動の認知が進んでいる。令和4年度も、新型コロナウイルスにより活動自粛期間があり巡回数は減少している。コロナ禍を経て感染対策に配慮した新たな活動方法を模索するとともに、青少年指導員にしかできない活動を自主的に継続していけるよう支援する。								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	あり	類似としては、福岡県警察が委嘱している少年補導員（中学校区毎に活動、補導や立入り調査等の権限を持っている）がある。青少年指導員は、市の委嘱で、小学校区毎に見守り活動を行うなど、裾野の広い活動を行い、補導等の権限を持っていないため、巡回パトロールなどでは、少年補導員と連携・協力して活動を行っている。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	基礎的事務事業	業務推進課題	なし							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
青少年指導員会は、役員と各校区の代表者で構成された役員・幹事会を定期的に開催し、各地域（11小学校区）の現状報告や対策を話し合うなど、積極的に青少年指導活動が行っているため、青少年健全育成、非行防止のため支援を続けていく。										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）						備考・特記事項 or 進行管理欄				
平成4年7月、「青少年を非行から守る全国強調月間」に併せて発足し、小学校区を中心に、青少年の健全育成に関する育成事業の推進、各種指導者との連携を図る等、青少年活動の指導を目的とする。						平成23年度に例規の改正を行い、平成24年度から小学校区5人以内（11小学校区に55人以内）体制となった。令和5年度から、任期を1年から2年に変更（4/1～翌々年3/31）				

事務事業名 ヤングテレフォン相談事業

出力日：令和06年03月18日

キーコード：674

施策：	19	青少年の健全育成	財務コード	01090603-02-545
基本事業：	05	青少年の悩み相談の充実	担当部	教育部
基本事業の成果指標	青少年の相談窓口を知っている児童・生徒の割合		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成03年度 ~		新規・継続	継続	会計区分		実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
青少年（保護者）			<p>【電話受付】 毎週月～土曜日の午前10時から午後6時まで 電話により2人体制で相談受付（匿名可）。</p> <p>【メール受付】 メールによる相談受付（市ホームページから投稿）</p> <p>【周知活動】 市公式HP、市広報、PRカード（名刺サイズ）、チラシによる周知。</p> <p>【連携活動】 内容により、関係機関につないでいる。</p>						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
青少年自身や保護者の悩みに、電話で応じ傾聴しながら、その内容に応じたカウンセリングを行うことにより、青少年の非行防止と健全育成を図ることを目的とする。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	03年度 実績	04年度 実績	05年度 当初	06年度 要求	07年度 計画	08年度 計画	目標
相談件数（相談実数）		件	652	609	600	600			600
他機関への取り次ぎ件数		件	18	25	20	20			20
5. コスト									
事業費		計	千円	3,798	3,971	3,999	4,904		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0		
一般	千円	3,798	3,971	3,999	4,904				
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1				
正職員人件費		千円	792	773	782				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	4,590	4,744	4,781	4,904			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている	相談件数は増加傾向にあるが、リピーターによる相談も多く、無言電話も増加した。								
どちらかといえばあがっている									
あがっていない（停滞・低下）									
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	あり	県の相談窓口（子どもホットライン24）に比較すると、電話はかかりやすいが、青少年からの相談件数は横ばいの状況にある。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了	
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
より効果的な事業となるよう引き続き検討を行う。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				備考・特記事項 or 進行管理欄					
青少年自身や保護者の悩みの相談を電話で応じ、傾聴しながら、その内容に応じたカウンセリングを行うことにより、青少年の非行防止と健全育成を図ることを目的として、平成3年度に開設。				平成27年4月1日より、メールでの相談受付開始。 平成27年4月1日より、開設日を月・火・木・金の週4日から、月～土の週6日へ変更。 時間帯は変わらず、10時から18時まで。					

事務事業名 はたちのつどい事業

出力日：令和06年03月18日

キーコード：662

施策：	19	青少年の健全育成	財務コード	01090603-14-552
基本事業：	99	施策の総合推進	担当部	教育部
基本事業の 成果指標			担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
20歳になる新成人（4月2日から翌年の4月1日生まれが対象）			新成人（20歳対象）を主とした実行委員会により、企画、運営を行う。市広報、ホームページ等により公募したはたちのつどい実行委員会への指導・助言その他諸事務を行う。はたちのつどい当日の運営スタッフとして、中高生ボランティアや青少年指導員・少年補導員に協力要請を行っている。						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
成人としての自覚を促すことにより、新成人が主体的に社会参加できるようにする。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	03年度 実績	04年度 実績	05年度 当初	06年度 要求	07年度 計画	08年度 計画	目標
参加者数		人	802	720	770	770			800
成人を迎えた人のうち成人式に出席した人の割合		%	73	62	75	75			75
5. コスト									
事業費		計	千円	1,352	1,325	1,443	1,491		
		国	千円			0	0		
		県	千円			0	0		
		地方債	千円			0	0		
		その他 一般	千円	1,352	1,325	1,443	1,491		
正職員人工数		人工	0.3	0.3	0.3				
正職員人件費		千円	2,376	2,318	2,345				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	3,728	3,643	3,788	1,491			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		令和5年のはたちのつどい（旧成人式）も新型コロナウイルス感染症対策を行い二部制で実施した。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし						
手段効率化余地	あり	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	基礎的事務事業	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
対象者から、はたちのつどい実行委員を募り、テーマ・記念品の決定、式の進行など、企画運営をさせることで、新成人（20歳）にとって魅力ある式典を開催していく。					はたちのつどいの運営サポートには、市広報等で募集依頼を行い、応募等の中・高生ボランティアや青少年関係団体をボランティア活用しており、将来の新成人へのアピールを含めている。				
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
新成人に「成人としての自覚を促し、自ら生き抜こうとする青年を励ます」ことを目的に、式典を実施する事業として開始。成人の日が変更されたことに伴い、三連休の真ん中の日（中日）に成人式をしてほしいという市民の要望もでてきた。					平成26年成人式より、成人の日（ハッピーマンデー）の前日の日曜日（三連休の真ん中の日）に、日程変更して実施することとなった。成人年齢引き下げ（2022年4月）に伴い名称を「はたちのつどい」に変更。				